

作物名 **そらまめ (未成熟) (マメ科)**

J A 2022 版

標準作型

○印・播種 (種まき)

□印・収穫

作 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
露 地										○	○	

栽培のポイント

酸性土壌と連作を嫌う。

畑の準備と元肥

播種・定植の 15 日前までに苦土石灰 (20kg/a)、堆肥 (200kg/a)、元肥を全面に撒いて、15~20 ㌦位の深さまでよく中耕しておく。

播 種
(種まき)

10 月下旬から 11 月上旬が適期。あまり早くまくと寒害にあたるので注意する。
 大粒種：うね間 90~100 ㌦・株間 25~30 ㌦
 小粒種：うね間 70~75 ㌦・株間 25~30 ㌦
 種子のおはぐろ (へソ) を下にしてまく。播種量の目安：15~20d1/a
 (種子をポットに 1 粒ずつ播種して育苗し、11 月中旬に定植する方法もある)

育 苗

ソラマメは、発芽が悪く直まきをすると欠株の原因となるので育苗をしたほうが良い。育苗の場合は 9 ㌦ポリポットに 1 粒まきとする。深まきをすると酸欠となり発芽が悪くなるので、おはぐろを下にして、種子の一部が少し見える程度に差込んでおく。播種後は寒冷紗を掛け、アブラムシ類の飛来を防ぐ。播種後一週間程度で発芽する。育苗日数は 20 日程度とし、本葉 2~3 枚程度の若苗を植付ける。

アブラムシ類
対策

冬を越したソラマメは、春を迎えるとチョウ型の花を無数に咲かせる。この時期にアブラムシ類が茎葉の先端にたくさん付くので、薬剤散布等を行う。

追 肥

春先になり、盛んに伸び始めてきたころ化成肥料を株元に施し、多めに土寄せをして踏み込んで固めておく (放任しておくとも倒れやすい)。

防 寒

冬場の風よけや霜よけとして、竹笹などをソラマメの北側に立てて防寒する。ツルが伸びすぎると上を適当に切り取っておく。

病虫害防除

アブラムシ類が付きやすい(ウイルス病を媒介するので防除は怠らない事)。白マルチまたは、ムシコンマルチの使用は、アブラムシ類への忌避効果がある。

収 穫

莢が下垂し、莢の背筋が黒褐色になって光沢が出始めたころ、莢をむいてマメのおはぐろ部分が黄色くなっていたら収穫の適期。

肥料施用量

(1 a 当たり使用量)

肥 料 名	ジシアン有機化成 S 806 号	磷硝安加里 S 646 号	施 肥 時 期
元 肥	8 kg		播種・定植の 15 日前まで
追 肥		2 kg	1 回目： 3 月上旬 2 回目： 4 月上旬